

特集

健

康

診

断

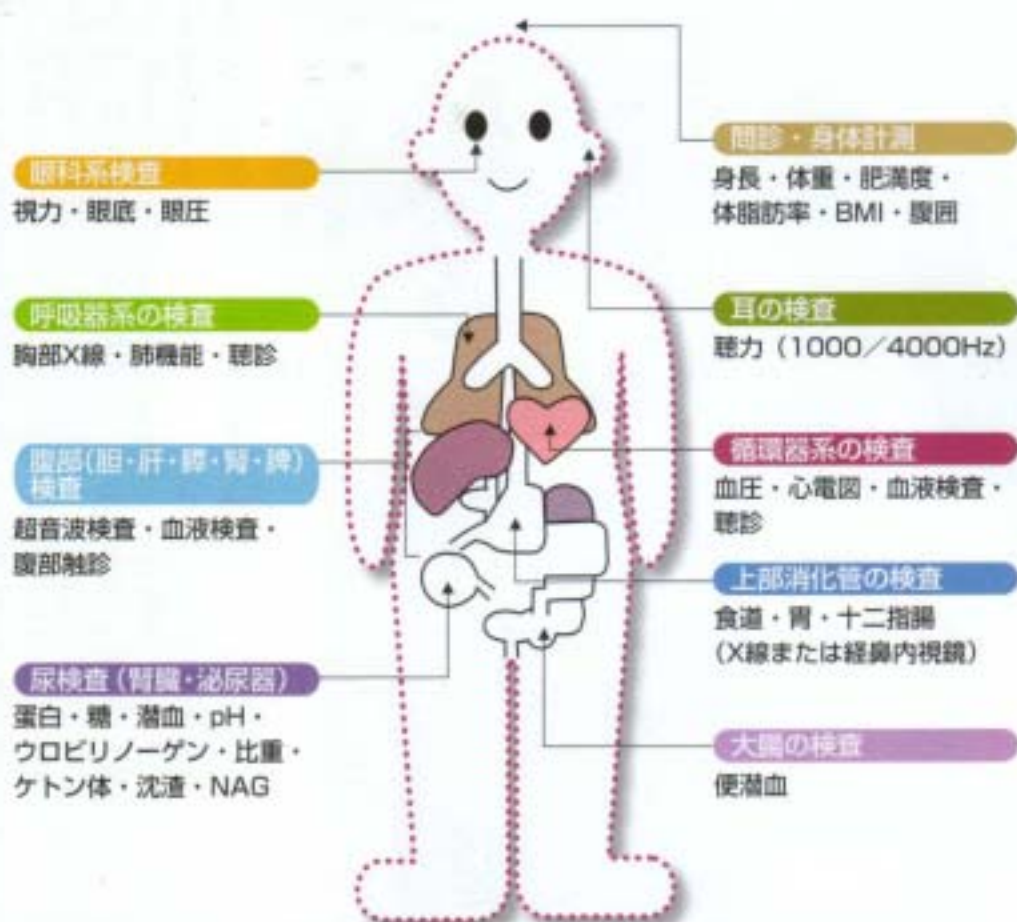
の

す

す

め

健康診断ではこんな検査をします



皆さんは健康診断を定期的に受けていますか。

健康状態を調べる方法として、「健康診断(健診)」「検診」「人間ドック」の3つの検査があり、いずれも病気の予防や早期発見のために行われるものですが、その内容には微妙に違いがあります。

「健康診断」とは、全身の健康状態をチェックする目的で行われるもので、その種類には、国の法律で定められた「法定健診」と、個人の判断で受ける「任意健診」があります。検査項目や内容はそれぞれですが、一般的には問診、身体計測、血圧測定、検尿、血液検査など8〜15項目程度です。

「人間ドック」は「任意健診」にあたり、外来や短期入院によって行われる精密な健康診断のことですが、一般的な健康診断よりも充実した検査が受けられます。検査項目は多岐にわたる、近年では脳ドック、心臓ドック、レディースドックなど、専門ドックも増えています。

一方の「検診」は、特定の病気がどうかを診断するものです。肺がん検診、

胃がん検診、大腸がん検診、乳がん検診、子宮がん検診など、各種がん検診がこれにあたります。

日本人の死因の6割を占める、悪性新生物(がん)、心疾患・脳血管疾患は生活習慣との関わりが強く、糖尿病や高脂血症など生活習慣病には、ほとんど自覚症状がありません。ですから、これらを早期に発見するためにも健康診断が必要です。一般におそれられている「がん」も、がん検診で早期発見ができれば、早期治療につながり、治らない病気ではないといわれています。

今は医療設備や技術が進み、苦痛を伴う健診・検査はほとんどありません。地域には、たくさんのお受診施設、サービスがありますので、それぞれのライフスタイルに合った健診・検査を受けましょう。

今回の特集では、本誌編集長が人間ドックに挑戦。最新の健診・検査レポート。さらに、その結果を正しく理解し、日々の生活の中でそれを活用していくことが大事だと実感します。

皆さんもこの機会に、自分の健康のこと、考えてみませんか。

これが最新の人間ドックだ！

10年以上も健康診断を受けていないという本誌編集長・藤本裕子
が人間ドック体当たりレポートに挑戦！今回は「医療法人社団相
和会 みなとみらいメディカルスクエア」さんに全面的な協力をい
ただき、なんとホテル以上のサービスと環境の中で、快適な人間
ドックを受けることができました。基本コースに加え、MRIや
経鼻内視鏡、マルチスライスCT、マンモグラフィなど最先端の
オプション検査も受診。早速、実況中継します。

基本検査のチェック項目



【受付】

笑顔で迎えられ、まるでホテルのフロントのようで、いい感じ！



【問診】

問診票をもとに、私の生活習慣や健康状態についてのカウンセリングと、今日の健診メニューの説明を受ける。やや緊張。

【血圧測定】

血圧測定器に手を入れるだけでOK。血圧は低い～！



【肺機能検査】

「息を吸って～、吐いて～」で肺の状態がわかる。寝不足でパワー今いちだが、数値は正常。



【採血】

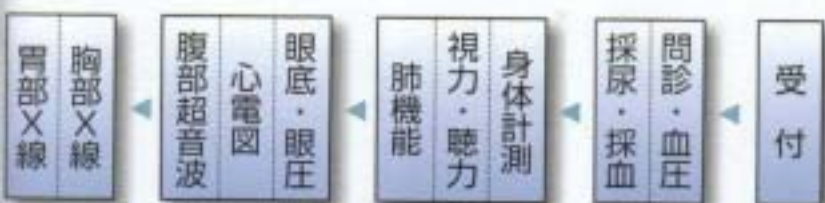
血液検査で各臓器の機能低下、亢進の程度、異常の有無を調べることができる。針を指すのはやっぱり怖い！自分の血を見て、ドキドキ。



【採尿】

採尿後はコップごと提出。外側の容器は、名前を目隠しするためのもの。ちょっとした気配りがうれしい。

健康診断 1日コース (約3時間)



明るいエントランス

【乳房検査】(マンモグラフィ)

乳がんの早期発見を目的に乳房を圧迫し、乳房組織や脂肪組織を観察。視触診や超音波では判別できない微少のものまでわかるという。挟まれて痛そうだけど、ガマン、ガマン。



～健診を終えて～

自分の体を知ること

忙しい、面倒くさい、こわいを理由に、10年以上も健康診断を受けずじまい。「もしこれで、病気が見つかったらどうしよう?」と、全く健康に意識も自信もない私でしたが、フルコースの健診を無事終了。今の気持ちは「受けてよかった!」の一言に尽きます。

今まで無意識に生きてきた私ですが、自分の体を知ることの大切さを、改めて実感しました。特に経鼻内視鏡検査では、初めて見た自分の食道や胃の中にびっくり。人間の体ってすごい。一分一秒も休まず懸命に生きている。毎日おいしいものを食べて、楽しい仕事ができるのも、健康な体のおかげなんですね。

それにしても今回の健診、不安どころか、とてもリラックスして受けることができました。理由は、先生やスタッフの皆さんの丁寧で気持ちのいい対応。そしてもう一つは、洗練され、落ち着いたこの空間にあるのだろうと思います。「健診を楽しめるなんて最高!こんな健診なら毎年受けてたい!」って、本当にそう思います。

病気を発見するためではなく、未来のために自分の体に関心を持ち、感謝することが、何より健康のポイント。こんなチャンスを与えていただいたヴィサンに感謝です。(藤本)



本を読みながら、レントゲン検査の結果を持つ編集長。受診中のウェアは肌触りもよく、心身ともにリラックス

【眼圧&眼底検査】

緑内障などの早期発見のため、眼圧を測り、眼底をのぞいて視神経の状態をチェック。「最近、字が読みにくくて不便を感じているんです」と話すと、「それは年齢のせい」と言われ、納得。



【腹部超音波検査】

ゼリーを塗り、腹式呼吸をしながらの検査。胆のう・肝臓・脾臓・腎臓・膵臓など内部臓器を観察。「お腹の脂肪まで見えちゃうかな?」と独り言。



【マルチスライスCT】

X線とコンピュータを用いて体の断面像を映し出す。肺がんの早期発見に威力を発揮するという。宇宙船に乗り込むような感覚?

【胸部X線検査】

「息を吸って～、はい止めて～!」と、おなじみレントゲン検査。呼吸器と循環器に異常がないかを調べます。

※今回はオプションで以下の検査も受診。脳MRI・MRA/マルチスライスCT/内臓脂肪量測定/腫瘍マーカー/骨密度測定/子宮頸癌検査/経鼻内視鏡 (写真にないものもある)

別送婦人科

医師診察

【脳検査 MRI/MRA】

オープン型MR機器を使用し、脳出血や脳梗塞、脳腫瘍など頭部の検査。すごい機械の中にすっぽり頭を入れて、輪切りにされる!? 20分ほどかかるが、圧迫感も閉塞感もなく、思いのほか、音も静か。



右は食道の画像。「様を見せるより、恥ずかしいかも」と編集長



【胃部検査】（経鼻内視鏡検査）

鼻から内視鏡（胃カメラ）を入れて、食道、胃、十二指腸を観察するもの。まず鼻に局所麻酔ゼリーを注入し、麻酔をする。15分ほどで麻酔がかかると、いよいよ内視鏡挿入。ドキドキするけど、痛みはない。内視鏡は鼻から食道、胃と入り、先生が画面を見ながら「ここが食道で、次は胃に入りますよ」と丁寧に説明してくれる。想像していた以上にきれいな壁に感動！ おっ！ 胃に米粒大のポリープを2個発見！ 先生の「サイズや色合いから良性のポリープでしょう」という言葉にホッとす。従来の口から飲む検査とは異なり、嘔吐感がなく、ラクに受診することができた。



【骨密度検査】

腕を機械の中に入れるだけで簡単測定。女性の場合、50代頃から激しく減少すると聞き、不安だったが、こちらでも平均値でひと安心。



【医師診察】

ドキドキ。最後は医師からの結果報告とアドバイス。現時点ですべての結果は出ていないが、今のところ大きな問題はなく、数値も正常！ メタボもギリギリセーフみたい。



院内設備紹介



施設全体はヨコハマの海と赤レンガをイメージ。内装に和洋折衷を上手に取り入れ、落ち着いた空間になっています

今回お世話になった「みなとみらいメディカルスクエア」はまさに、安らぎの空間。医療の質の高さ、迅速性、快適性は、これまでの健診のイメージを大きく変えた。充実した最新医療機器だけでなく、医師やスタッフのホスピタリティあふれる空間は、不安な受診者にとっては何より。ホテルのような贅沢なスペースと心地よいサービス。私自身が健診を受けているということさえ忘れられるほど。



●医療法人社団 相和会 みなとみらいメディカルスクエア
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-6-3 MM/パークビル2F
TEL045-228-2000 <http://www.sowa.or.jp/>

未病のうち健康チェック 自分に合った施設選びを

医療法人社団相和会みなとみらいメディカルスクエア 院長 石川 廣記



PROFILE ●慶應義塾大学医学部卒。けいゆう病院外科部長を経て2008年1月、医療法人社団 相和会 みなとみらいメディカルスクエア院長に就任。日本外科学会指導医。日本消化器外科学会指導医。日本乳癌学会専門医。

わが国は世界一の長寿国となりましたが、近年は食生活の欧米化が進み、高脂血症、大腸がん、乳がん、糖尿病など生活習慣病の増加も大きな社会問題となつていきます。これからは団塊世代の替様が第二の人生を楽しむ時代といわれますが、年齢にかかわらず、人生を楽しむにはやはり健康が一番であることはいうまでもありません。

そんな中、4月からメタボリックシンドローム対策として、新たな検査項目「腹囲測定」が追加されました。問題は皮下脂肪ではなく内臓脂肪。見た目は痩せていても内臓脂肪がびっしりという人もいて、これが俗に「隠れ肥満」といわれるものです。本人に自覚がない分、肥満体の人より注意が必要です。なぜなら、生活習慣病の代表格である糖尿病や高脂血症、高血圧な

どは肥満と大きく関係があり、この生活習慣病は、血管の老化を早め、動脈硬化を引き起こし、また心筋梗塞や脳梗塞などの病気を誘発する確率も非常に高いのです。また、がんも肥満との因果関係も問題視され、たとえば、子宮がんを罹患している人で糖尿病を併発している人も少なくありません。

このようにさまざまな弊害がある内臓脂肪ですが、皮下脂肪と比べ、代謝がよいという特徴があります。食事制限や運動など本人の努力や心がけによって、比較的簡単に減少させることもできます。そのため少しでも早い時期に腹囲計測などで内臓脂肪をチェック、さらに健診結果に基づき、必要に応じて心電図検査なども受けていただきます。それらの結果を踏まえ、一人ひとりに保健指導を行います。病

気になってから治すのではなく、病気になる前「未病」の状態でも健康な体へ戻すことが私たちの役割であると考えています。病気の芽を早く見つけるためにも、定期的な健診は必ず受けていただきたいと考えています。

現在は、ほとんどの方が学校や職場などで健康診断を受けていると考えられます。問題は、個人事業者や主婦、それにリタイアした高齢者です。健診を受けられる施設はたくさんありますので、専門医や専門技師の有無、得意分野など、それぞれの施設の特徴を踏まえ、施設を選ばなければなりません。

みなとみらいメディカルスクエアは、経鼻内視鏡やオープン型MR、マルチスライスCTなど最新機器を備えた医療施設です。またマンモグラフィ読影認定資格者、生活習慣病の管理・

指導者など専門の医療スタッフを配備するほか、同グループの長い経験とデータに基づき、受診者の立場に立った機器と環境を整備、質の高いサービスをこ提供しています。併設の内科、外科クリニックはもとより、専門性の高い病院とも提携していますので、安心して受診していただくことができます。

「健康診断に行く」と、生活習慣を問われ、いろいろな注意を受けそうでいやだ」という方、「結果がこわくて行かない」という方も多くて驚きます。けれども、健診の目的は悪いところの発見ではなく、「今年も健康でよかった」と安心を得るためのものでもあります。充実した毎日を過ごすためにも、欠かせない健康診断。この機会に、ぜひ一度、ご自身の健康状態を総点検してみませんか。

私にとっての「健康診断」

誕生日を迎えられること
うれしくないですか？

50歳の誕生日より保健所の基本健
査を15年間受けていました。64歳を
過ぎて、今はみなと赤十字病院で基
本健診とがん検診を受けています。
誕生日を迎えられる自分へのプレゼ
ントだと思っています。おかげさま
で大きな病気もせず元気でいられる
ことが、何よりうれしいです。よく
注意されるのは、コレステロールと
体重。運動するようについわれます。
毎年、誕生日を迎えられること、う
れいなので、おかげさまで、おかげさ
まで、おかげさまで、おかげさまで。

横浜市／山本まちぢん (88歳)

医師の指導のもとで 健康を保っています

定年退職後は、毎年、鎌倉市の実
施する健康診断を受けています。
①基本健康診査②大腸がん検診③肺
がん検診④胃がん集団検診。心電図
に不整脈が発見され、ホルター心電
図でも若干多めのため、医師の診

療・指導のもと服薬を続け、不整脈
の回数も減少してきています。

鎌倉市／鈴木和光 (66歳)

自分のためだけでなく 家族のために、健康診断を

鎌倉市で実施している年一回の健
診を全項目受けています。ここ5年
くらいは特に異常は見つかっていま
せん。平成5年に腸ポリプが見つ
かり、開腹切除を実施。早いうちに
発見できたのでよかったです。成人

結果に気づいて

栄養診断をしてもらいたい

健康診断を受けてよかったですと思っ
るのは、自分では気がつかない、体の
中の変化を知ることができるところで
す。それによって、必要な対策を講
ずることが出来るわけです。知らな

鎌倉市／北島令司 (85歳)

ヴィサン読者の皆様から、健康診断についてのご意見を伺いま
した。さすが健康に対して意識の高い方が多いのに驚きました。
健康診断は健康を維持するために必要なこと。「誕生日に健康
診断」は、若い世代にも伝えていきたいですね。

病にならないために、本人はもちろん
ん、家族のためにも、健診は絶対的
に受診すべきだと思います。

ければ、悪いまま何年も過ぎ、わか
ったときは手遅れ...というこにな
りかねません。私は健康診断の結果
をパソコンで表にしていますので、
各測定値の時系列変化がわかります。
一時的に高くなったただの場合と、
恒常的に高めの数値とがわかります。
これによって、どの面を重点的に注
意したらいいかがわかるわけです。
なお、栄養診断をしてほしいという
があると思います。とこの
は、数年前、腰が痛くて近くの整形

医師に診てもらうことで 生まれる安心感



小林尚子 (65歳・相模原市)

毎年12月、一年のしめくくり健康診
断に行くようになって、10年になります。
実家の父兄弟とも高血圧症。脳梗塞で倒れ、
40～64歳と比較的若くして亡くなってい
ますので、自分はそうならないようにと気
をつけています。

2か月に1回は病院で血圧を測り、薬を
いただいています。結果がよければラッキ
ー。健康であるという喜びが自然にわいて
きます。昔から胃が弱く、医師に診ていた
だと、神経の使い過ぎとのこと。医師の
言葉で説明されると、それまでの不安がな
くなり、不思議と心も体もラクになります。
これこそ、健康診断のよさだと思います。

地域では30年以上、体操やリズムダン
スを指導しています。これからも地域の皆
さんとともに、健康でいきいきと、笑顔で
過ごせたらと思います。



人間も機械と同じ
メンテナンスが大事だよ



男澤一男 (76歳・横浜市)

現役引退以降、6~7年前から年1回、専門の健診センターで人間ドックを受けています。例年結果はほぼ同じ。糖尿病と高血圧症の心配が少々。人間ドックの結果をかかりつけ医に見せて、投薬と指導を受けています。持病の糖尿病とは長いつきあいで、少食、多歩を心がけ、体重の増減には注意をはらっています。

私自身、10年間ほど、電気設備のメンテナンスの仕事をしていましたが、毎年定期点検しているところは大きな事故は起こりません。人間だって同じで、年に1度のメンテナンスと思えば、人間ドックは当たり前。4万5000円程度はかかりますが、必要経費と考えています。

元気でいられるうちは、元気でいたい。聖路加国際病院理事長・日野原重明先生の講演会を聞いてからは、必ず階段を利用するようにしています。



が大切な世の中ですもの。

匿名希望

**医師のレベル低下が気になる
何を信頼したらいいか**

毎年、基準値が変わり、ポーターラインを越す項目が増えていきます。そのたびに精密検査を受けますが、特に「糖化ヘモグロビン」は悩ましいです。健

外科に行ったら、レントゲンの結果、「骨密度が薄い。骨粗しょう症になりかけている。カルシウムをもっと多くとるほうがいい」と。日頃からカルシウムを多くとるよう心がけていますが、それでも検査機器で調べると、そういう結果が出るのです。そこで、定期的に栄養診断をしてもいいとありがたいと思います。

伊勢原市／橋本剛一 (72歳)

**早期発見が一番
健康診断は絶対おすすめてです**

主人と主人、毎年受診していましたが、数年前、主人が胃がんであることが判明。即入院、手術となり、今は健康に過ごしています。受診しなしていたら、3年後には自覚症状

健康診断は、自己管理につながるもの。またデータ管理をしているので、ある程度の判断はできています。ただ医師によって考え方が異なるので、何を信頼したらいいのが困ることも多いです。今の医師は、経験の差というが技術力が、全体的にレベルが低下しているように感じます。

匿名希望

**病気になる前の予防こそ
長寿の秘訣**

父母とも90歳を越えて生き、母は96歳で急性肺炎で亡くなりました。長寿の秘訣は日頃の生活習慣と、医者との接触を常に心がけ、病気になる前の予防に気をつけていたことだと教えられてきました。病気がかかってお金をかけるより、こまめに予防のためにお金をかけていってほしいが、

が出て、手遅れになる可能性があるとのことでした。年に1回は必ず受診し、健康な安心、病気が発見されたら早めに治療。皆さん、絶対に健康診断はおすすめてです。

横浜市／阿部加代 (63歳)

**投薬治療に抵抗があるので
健康診断は受けていません**

健康診断は受けていません。体調が特別悪ければ別ですが、また、検査結果に問題（コレステロールが高いとか、高脂血症とか）があるからと、すぐに投薬されるのは、受け入れにくいことです。体質的に科学物質でつくられた薬剤に敏感に反応が出やすいので、私はもっぱら漢方薬や民間療法に近いもので体調管理をしています。人間は自然の生物。自然の中に生かされていると思っております。今まで何とかが大病せずになりましたので、薬や注射（抗生物質）で無理に延命治療は希望しておりません。現状は高齢者は決して喜ばれる存在ではなくなっています。弱者は切り捨てられるようで、生きるのが大変な世の中ですもの。

経済的にも無駄にならない。プライマリヘルスケアが一番大事。わかっているけど、なかなか父母のようにできないが、お手本として努めています。

匿名希望

がん検診受診率アップを目指して



どんなに健康的な生活を送っていても、「がん」は音もなく忍び寄ってきます。「死の病」を連想し、恐れられている「がん」ですが、最近は早期発見、早期治療により、完治する病気になってきました。

昭和52年と平成14年の神奈川県データを比べると、人口は1.3倍。がん患者数は約8000人から約3万人へと3.8倍以上も増加しています。平成18年には県内で「がん」で亡くなった方が約1万9000人に達し、総死者数の1/3を占め（3人に1人が「がん」）、第1位となっています。

がん早期発見の重要性が叫ばれている中、がん検診の受診率が上がり、しかも、検診での早期発見も少ないことが指摘されています。神奈川新聞社の「がん患者意識調査」によると、がんにつながる「異常」が見つかったきっかけは、がん検診（職場健診、住民検診、人間ドック）で見つかったのは20%にすぎず、およそ3人に2人が自覚症状から受けた病院の診断だったことがわかりました。

また、がん検診で発見されたがんは、本人の自覚症状のない早期の段階で発見されることが多いため、症状が出てから病院を受診して発見されるより、治る人が多く、検診による早期のがん発見が重要です。

乳がん、子宮がんは30歳頃から、胃がん、肺がん、大腸がんは40歳頃から多く発生することから、女性は30歳、男性は40歳からが「がん検診」開始の適齢期といわれています。以降は毎年の受診をおすすめします。

そこで、当財団では昨年度から、「がん検診受診率向上」を目指し、県内で活動する運動・スポーツ指導者（神奈川県スポーツ指導者連絡協議会会長・加藤保房氏）に協力を得て、「生活習慣病予防指導者育成事業」を展開。運動・スポーツ指導者362人を対象に、8回にわたり、がん関連の実態や対策についてレクチャー。その後、指導者から生徒さん（受講者）へ、一言を添えながら、がん検診のすすめや、がん検診の受診方法などが記載されたチラシを配布。受診行動を働きかけてもらいました。

ベテラン指導者45人にアンケートを実施。現在、データを集計中ですが、運動教室の生徒さん（1045人）のがん検診の受診率は80%を超えていました。今後も、運動・スポーツ指導者による、教室の生徒さんへの声かけにより、検診の受診率アップを目指しています。

Q & A

Q 「がん検診」はどうやって受けるの？

A 職場またはお住まいの市区町村で。人間ドックも。

○職場

職場健診の中にがん検診が含まれていれば、自動的に受診できます（費用は事業主）。含まれていなければ、各自で申し込みするなど、会社ごとに異なります（費用は本人負担）。

○住民検診

自営業者や主婦などを対象に市区町村が主体となり実施。検診の案内通知や広報を見て本人が申し込みます。費用は無料か一部本人負担。集団検診の場合は日時・会場が指定されます。医療機関での個別検診は比較的受診の機会が多くなります（市区町村によって集団検診のみ、個別検診のみ、両者併用など、実施形態はさまざま）。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kenkou/gan/ganishichoson.html>

○市区町村が関わらない人間ドックなど

総合病院、健診センターなどで希望者は誰でも受診できます。実施施設に電話などで予約をします。検査内容は施設により異なりますので予約時に確認が必要です。費用は全額本人負担になります。

<受診率アップを目指した取り組み>

検診を受ける前に声かけをする



検診結果を見た人に声かけをする

がんが発見された人

年に1回は 健診・検査を受けましょう

財団法人神奈川県予防医学協会 精密総合健診部部長 菊池美也子

産業保健や地域保健をはじめ学校保健、人間ドックなど、幅広く県民の健康を支えている神奈川県予防医学協会。中央診療所で検査終了後、健診データや健康状態などについて、受診者の相談・指導にあたっては菊池美也子医師に聞いた。



受診者に向け、ヘルス・カウンセリングをする菊池美也子医師

受診者数は年々増加しており、これは昨今の健康志向の高まりによるものと考えられます。乳がん啓発のピンクリボンキャンペーンなどもあり、女性の受診者は増えていますが、働き盛りの男性の健康への関心は、未だ高まっているとはいえません。

パソコンに診断結果をデータ入力、毎年の数値を比べるなど、自身の健康に深く関心を持っている人もいます。一方、健診を受けただけで満足し、その後の再検査や指導に対し無頓着な人も少なくありません。また毎年の健診をきちんと受けている人、何年も健診を受けない（受けたことがない）人もいるという具合に、二極分化しているのも事実です。中には「要精検」の指導を放置してしまうケースも多く、何のために高いお金を払って受けたのか。途中でやめることほどリスクなものはありません。

当診療所は、病院とは異なり、敷居が低い。けれども、がんや循環器系疾患などの早期発見に重点を置いた精度の高い検査を行っていること。専門の医療機関とつながっていることなどで、受診者側の安心は大きいようです。健診後は各種外来での二次検査への誘導、併せて生活習慣改善を目的にしたフォロープログラムを用意。医師、保健師、管理栄養士、健康運動指導士など専門スタッフによるサービスを提供しています。

最近の傾向としては、従来の健康診断（基本コース）に加え、個々の生活スタイルに応じたオプションメニューを選び、健診・検査を受ける人（オーダーメイド健診）が増えています。長年、会社の健康保険組合に頼っていた方が、離職後、人間ドックを受けるケースなど、専門のコンピュータに相談をし、健診・検査項目、生活、健康増進など、健康生活のためのさまざまなアドバイスを受けることもできます。

注目されるメタボリックシンドローム対策として、腹囲測定を実施。専門医指導による「メタボリック（内臓肥満）外来」も開設しています。ただ、メタボがすべてのようなイメージでとられてしまうことは問題で、

人間ドック

もしもの時は
迅速な紹介

各種専門医療機関
大学病院



フォロープログラム

- 生活習慣改善プログラム—
- ウォーキング＆ストレッチ教室
 - からだ「ひせしめ」教室
 - 栄養教室
 - 個別健康教育（栄養・高血圧・高脂血症・副腎機能異常）
 - 個別栄養相談

各種外来

- 循環器外来 消化器外来
- 呼吸器外来 生活習慣病外来
- メタボリック（内臓肥満）外来
- 糖尿病外来 泌尿器外来
- 骨粗しょう症外来
- 女性クリニック
- ライフサポートクリニック（メンタルヘルス外来）

生活習慣病は命にかかわる疾病であることを認識してもらう必要があると思います。

多くは日常生活に流されてしまいがちですが、健診・検査があることで、たとえ一時的であっても、必ず健康に留意するということが大事。健康に自信のある人もない人も、まずは年に1回の健康診断を受けていただきたいと願っています。